

# 令和5年度の事業報告書

2023年4月1日から2024年3月31日まで

一般社団法人さが・こども未来応援プロジェクト実行委員会

## 1 事業実施の基本方針（定款より）

多重な困難を抱える子どもや家族と、子どもの居場所をはじめとする各種支援団体等との繋がりを創出することで、子どもたちの孤立を防止し、困難を解消し、健康や生活習慣の向上を図り、すべての子どもたちが健やかに安心して成長していける社会を実現することを目的とし、その目的に資するため、次の事業を行う。

## 2 今年度事業の事業概要

前年度の基盤強化を経て取り組むプロジェクトが増加し、事務局職員も前年度の5名から9名（うち3名パートタイム雇用、3名は年度内に退職）に増員して事業を実施した。事務局の事業予算も前年比約150%の4,300万円と大幅に増加し、さらなる基盤強化の年度となった。

一方で事業および職員の増加に伴い、職員の育成やガバナンス強化などが課題となり、毎週の事務局会議もそれを重点目標として実施した。特に8月以降はテレワークのエリア担当も含め全員が対面で議論することで内部コミュニケーションの推進を図った。

前年度から継続で、佐賀県から受託の『こどもの未来応援コーディネート事業』、むすびえが資金分配の『こども食堂をハブとした地域の資源循環デュアルモード構築事業』、空家・空地活用サポート SAGA から受託の『佐賀コミュニティフリッジ運営』の3事業を実施した。また今年度の新規事業として、当団体では初の休眠預金を活用した資金分配事業として『「ごちそうさま」をきっかけにした困難を抱えた子育て家庭の支援事業』、またこれも初の市町行政からの受託となる『唐津市子どもの居場所等支援コーディネート事業』の2事業も実施した。大きなプロジェクトは以上5事業、その他に全国の県域ネットワーク団体との交流をメインとした「お宝情報連携プロジェクト」や佐賀県食でつながるネットワーク協議会の事務局業務なども実施し、県内のこどもの居場所やひとり親を中心とした子育て世帯への支援を大幅に拡大した。

上記のプロジェクトと、佐賀県所属のこどもの居場所立ち上げサポーターとの協働によって県内のこどもの居場所開催数は大幅に増加し、年度末にはその数が111ヵ所となった。

今後は引き続きこどもの居場所拡充に注力しながら、関係機関や団体との協働をより具体化することで、居場所だけではカバーできない、より困難な状況にあるこどもたちへの支援にも取り組み、“**どんな境遇のこどもたちも見捨てない地域社会**”の実現を目指していく。

### 3 今年度の事業内容

#### ■県委託事業

今年度は5月から佐賀女子短期大学の食支援倉庫の活用が始まったことにより、支援企業や団体等からの寄付品が大きく増え、支援実績延べ回数が198回、マッチング延べ件数が826回と、それぞれ前年比で160%と151%であった。これは件数であり、数量や重量は前年まで実測していないため比較できないが相当に拡大している。(今年度実績31.6トン)また体制が確立されたとして、当事業でのマッチング委託は今年度で終了となった。

こどもの居場所の新規開設や開催数の大幅な増加もあり、相談対応実績は759件と、これも前年比で171%と大きく増えた。居場所の増加に対応するために進めているエリアネットワーク単位でのコーディネートを基本形とし、コーディネーター3人体制で効率化を進めた。こどもの居場所ポータルサイト掲載の拠点数は86ヵ所となり、前年度末から14ヵ所増加した。

また9月よりポータルサイトでの情報発信を強化したことで、10～3月下半期のサイト利用回数(月平均)は599回となり、上半期までより増加したと考えられる。(7月以前は実績確認しておらず、8月277回・9月430回であった)

財源：県の委託費 882万円

期間：2023年4月1日～2024年3月31日

#### ■唐津市委託事業

今年度より始まった初の市域でのコーディネート委託事業で、こどもの居場所の他にこども宅食団体も対象となっている。内容は既存拠点の運営支援、居場所の自立運営に係る地域連携の推進、居場所の創設支援の3項目となっており、当事業で雇用した唐津エリアコーディネーターを中心に事業を推進した。

まずは北部エリアネットワーク会「ぽかぽか」を正式に立ち上げ、上半期と下半期にそれぞれ1回ずつネットワーク会および研修会を開催し、市域における居場所や宅食団体の連携体制づくりを進めた。また、8月と3月にそれぞれ1回ずつネットワーク会主催の合同イベントをイオン唐津店にて開催した。（8月は地元企業中心に5社の協力もいただき夏まつりイベントを、3月は一風堂のキッチンカーをお招きしてこども食堂イベントを実施）

支援企業等からのマッチング実績は149件となり、唐津市と合意した目標値120件を越える実績となった。フードバンクからつと地元企業の協力体制への配慮から、唐津市外の企業団体からの支援マッチングがメインとなった。この活動の発展は課題と感じている。

居場所等への訪問や相談支援についてもエリアコーディネーターが個々との良好な関係構築に奔走し、145回（目標60回）と積極的な相互コミュニケーションが実現できた。

財源：市の委託費 367万円

期間：2023年4月1日～2024年3月31日

#### ■休眠預金活用事業（2022年緊急枠・資金分配団体）

～「ごちそうさま」をきっかけにした困難を抱えた子育て家庭の支援事業～

多重な困難を抱えている子どもとその世帯を対象受益者として、そこに繋がり緊急的な支援を実施する実行団体を募集・採択し、共にその実現を旨とし活動を推進した。

4～5月で設定した36日間の公募期間に12団体から応募があり、そのうち6団体と事業を実施した。実行団体の事業実施期間は7月1日～2月29日までの8カ月とした。

5自治体で事業を進め、期間内に251の家庭、411人のこどもに支援を届けることができた。不登校児童生徒への学習支援をメインとした新規居場所や、個別支援をしている既存居場所の機能拡大など6団体様々なアプローチでつながり、各地域で大きなインパクトを残すことができた。

単年事業であるため、その後の継続や財源確保が各団体の課題になる。ただこの事業を通して各地域でより多くのニーズも見えてきており、資金分配団体として引き続き実行団体と接点を持ちコミュニケーションを続けていく。当事業でリーチした251世帯は、推定される対象世帯（該当5市町）の約30%程度であると推察している。

財源：助成金6,584万円（うち実行団体事業費5,000万円、当会経費1,584万円）

期間：2023年4月1日～2024年3月31日

参考：決算（見込）

助成金5,107万円（うち実行団体事業費4,027万円、当会経費1,080万円）

<https://johokoukai.janpia.or.jp/result/F201331/>

## ■休眠預金活用事業（2021 年通常枠・実行団体）

### ～こども食堂をハブとした 地域の資源循環デュアルモード構築事業』～

2022 年 4 月から 3 年間に亘って「こどもの居場所の防災・災害支援拠点化」「居場所の多世代利用促進」「エリアネットワーク化」「運営支援の確保」の 4 つの活動を進めながら、こどもの居場所の継続性を高める事業を実施している。

2 年目にあたる今年度はすべての活動を県内 4 つに分けた「エリアネットワーク」単位に切り替えて進めてきた。不定期ではあるが対面での交流会や研修の開催、さらに日頃からの LINE グループでの交流も促進させ、各エリア内で横連携の体制が構築されてきた。指標としている居場所運営者同士のリソース共有件数（物資提供や相互ボランティア参加など）は年間目標の 50 回を大きく上回る 157 回にまで達した。

上半期に実施した居場所の多世代利用状況調査では、全体の 50%弱が既に地域の多世代交流の場となっていることが判明。今後行政や社協などとも連携して関係人口増加を推進していく。

下半期にはこどもの居場所団体に防災意識調査アンケートを実施した。70%の居場所が防災に関心があるが、同時に 70%がその知識がないと回答。また 80%以上が有事には炊き出し等の支援を希望しているが、地域との連携体制が無い居場所も多いことが判明した。最終となる次年度は各エリアでの防災研修やこどもの居場所向け防災マニュアルの作成などを進めていく。

また市町行政や支援企業・団体への訪問活動も継続実施し、今年度の訪問面談回数は 185 回であった（目標比 93%）。最終年度は社協への訪問を開始し、こどもの居場所を支える地域ネットワークづくりに注力する。

この休眠預金活用事業の一環で事務局職員の高山が『ファンドレイジングスクール 8 期』を受講することができた。ここでの学びを今後の団体運営に反映させていく。

財源：助成金 1,030 万円/年

期間：2022 年 4 月 1 日～2025 年 2 月 28 日

参考：<https://johokoukai.janpia.or.jp/result/A200122/progress-report/>

## ■佐賀コミュニティフリッジ運営

前年度に引き続き、空家・空地活用サポート SAGA が開設したコミュニティフリッジの運営実務を行った。前年度中に 100 名を超えた利用登録者数はさらに増加を続け、180 名を超えるまでになった。支援ニーズの多さを実感しながら、様々なご支援品の提供を継続させていただいた。なお当事業は今年度末にて受託終了となった。

財源：空家・空地活用サポート SAGA からの委託費 400 万円

期間：2022 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

## ■その他事業

### ・むすびえお宝情報連携プロジェクト

オンラインによる全国の県域ネットワーク団体との情報交換会（毎月 1 回開催）と、それらの団体との直接交流事業（鹿児島と山口を訪問、および高知からの訪問受け入れ）

### ・ふるさと納税活用事業（むすびえ連携調査事業）

介護事業所が「こどもの居場所」を実施する可能性を探るために、むすびえと連携して全国初の県内介護事業所でのこども食堂（多世代食堂）実施状況実態調査及び検討会議等を実施した。

参考：[https://saga-codomo.org/news/2023\\_jittaichosa/](https://saga-codomo.org/news/2023_jittaichosa/)

### ・その他むすびえからの委託など

こども食堂立ち上げ支援スキームヒアリングや広報勉強会への出席、よしもと新喜劇の訪問受け入れ、全国交流会（6 月、2 月）への参加等

### ・佐賀県食でつながるネットワーク協議会の事務局業務

セントラル倉庫の保守管理や佐賀女子短期大学との窓口業務、賛助会員への報告資料作成や視察の受け入れ業務などを実施した。